

第44期中間事業報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日

株式会社島精機製作所



Ever Onward—



CONTENTS

- p.2 … 企業理念
- p.3-4 … 社長メッセージ
- p.5 … 決算ハイライト
- p.6 … 営業報告
- p.7-8 … トピックス
- p.9-11 … 財務データ
- p.12 … 株主価値向上への取り組み
株主優待のご紹介
- p.13 … 株式の状況
- p.14 … 会社概要

限りなき前進

全自動手袋編機の開発を原点とする当社は、創業当初から『世界初』の製品づくりという目標を掲げるとともに、『Ever Onward 限りなき前進』を経営理念とし、創意と工夫により最高機能の製品を経済的な価格でお届けすることを基本に、常に顧客の立場に立ち、ニーズを先取りした製品開発を行ってまいりました。

以来、株主の皆さまをはじめとした多くのステークホルダーの方々のご支援、ご愛顧により、手袋編機からコンピュータ横編機、デザインシステムにいたるトップメーカーとして、高い評価をいただくまでになりました。

そのようななか当社では、「衣」の分野において、今までにない魅力ある商品づくりや新しいビジネスモデルを提案し、ユーザー業界であるニット業界を従来の労働集約型産業から知識集約型産業へと転換を促すべく、独自の技術開発に全力をあげており、ハードウェア、ソフトウェアに加え、ノウハウ、デザインまでも包含した総合的なサービスと情報を提供してまいりました。こうした活動を通じ、当社ではファッション産業を始めとするユーザー業界の活性化に貢献し、新しい「衣の文化」を形成することを目指しています。

総合メカトロニクス企業として、今後も創業の原点に立ちかえり、新たな『創造』にチャレンジし続ける当社に、より一層のご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株主の皆さまへ

第44期中間期の成果と今後のビジョン

当中間期の業績について

当中間期における連結ベースの業績につきましてご説明申し上げます。

当中間期の世界経済は、米国と中国の景気拡大を受けて総じて堅調な推移となりました。わが国においても設備投資と輸出の好調に加え、個人消費にも明るさが見られるようになりましたが、力強さには欠け、なお先行きに不透明感を残しております。

このような状況を背景に、当社グループは世界のアパレル・ファッション業界の中にあって、消費地でのホールガーメント[®]（無縫製ニット）横編機の浸透・拡販ならびに、大規模市場における横編機の従来機種種のシェアアップに経営資源を集中してまいりました。

海外市場では、大規模生産拠点としての香港、中国の設備投資意欲が引き続き活発な推移となり、アジア地域の比重が一層高まりました。また、欧州のニット生産の拠点であるイタリアでもホールガーメント[®]横編機を中心に売上を伸ばしました。一方、前期に設備投資が急速に拡大した中東のトルコは、調整局面が続き、売上が減少しました。この結果、海外市場全体では前年同期比0.1%の増加と、ほぼ横ばいとなりました。



代表取締役社長 島 正 博

国内市場においては、輸入ニット製品比率が依然として高く業界環境は厳しいなかで、付加価値の高いホールガーメント[®]製品の認知度が高まりましたが、設備投資の拡大には直結せず、前年同期比8.2%の減少となりました。

その結果、当中間期の売上高は、246億66百万円（前年同期比1.3%減）となりました。

利益面につきましては、増産に伴う稼働率の向上とともにコストダウンを進めましたが、トルコ向けの高利益率製品の売上減少や、香港、中国での販売競合による価格低下の影響で売上総利益率が低下したことにより、営業利益は56億20百万円（前年同期比9.8%減）となりました。経常利益は、為替相場が円安傾向で安定して推移したことにより為替差益が発生し、61億22百万円（前年同期比6.9%増）となりました。中間純利益は、37億63百万円（前年同期比28.9%増）となり、経常利益とともに過去最高を更新しました。

今後の方向性と通期の見通しについて

今後の経済情勢については、原油価格の高騰などにより米国経済は調整局面に入るものと見られ、中国でも当局による金融引き締め策により一時的な減速が予想されます。わが国経済も回復傾向は見られるものの不安定要素も多く、先行きに不透明感を残しております。

このような経営環境のなか、海外市場では、大規模生産拠点としての香港、中国の位置付けがますます重要性を増しており、今後も堅調な推移を予想します。特に中国では05年1月に予定される繊維製品の輸入割当制限（クォータ）の撤廃により、設備投資の拡充が期待されます。また、主要市場である中東のトルコは売上の落ち込みはありましたが、底打ち感が見られ、需要は回復基調を辿るものと考えております。また消費地型生産の欧州市場では、イタリア・ミラノのデザインセンターを9月に改装オープンさせたことを機に、ホールゲームント[®]横編機の拡がり本格化するものと期待されます。

国内市場では、アパレルやニットメーカーと商社の繊維ビジネス部門が協業体制を築き、ホールゲームント[®]を基幹アイテムとし国内の生産能力の活用を進めることで、新たなビジネスモデルを展開しています。このような業界動向を背景にホールゲームント[®]横編機の販売をさらに強化してまいります。

また海外売上比率に対応した、為替リスク管理体制にもとづくリスクヘッジを継続し、グループ全般にわたる



一層の合理化、効率化や生産性の向上による製造コストの低減を図ることで、業績の向上、安定的な利益の確保に全力を傾注します。

通期の連結ベースの業績見通しにつきましては、売上高485億円、営業利益115億円、経常利益112億円、当期純利益65億円を計画しております。

中長期的な経営戦略について

当社は、海外への売上比率が80%を超え、販売先は全世界にわたります。為替変動による利益面への影響が懸念されますが、為替予約や売上債権の流動化等によるリスクヘッジを積極的に進め、為替変動の影響を軽減するように努めております。中長期的には、コンピュータ横編機業界でのシェアアップ、ニット・アパレル関連業界へのデザインシステムの積極的な提案、手袋靴下編機のマーケット拡大、高収益体質の構築、リスク管理の拡充を重要な経営政策とし取り組んでいます。

今後も、「EVER ONWARD（限りなき前進）」の経営理念のもと、安定した経営を維持し発展を続けるために、さらに企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社の事業活動に対しご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

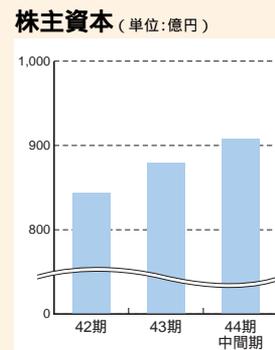
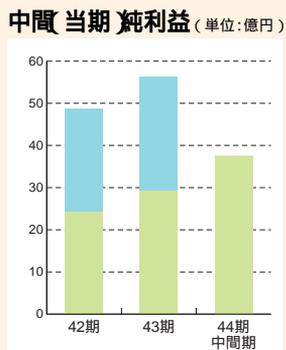
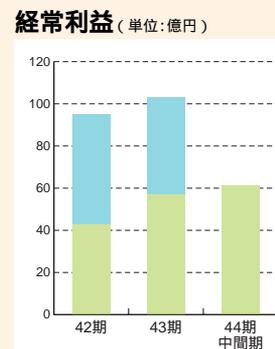
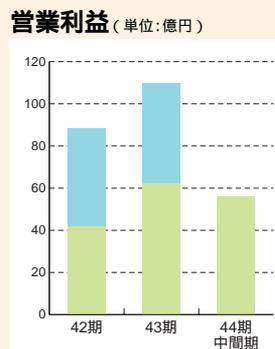
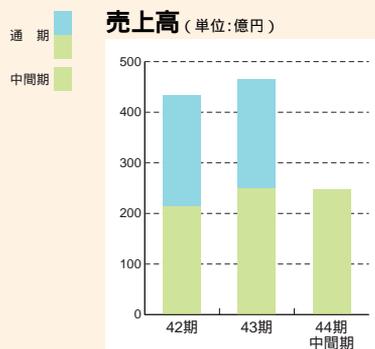


Financial Highlights

決算ハイライト

科 目	連 結			単 体		
	当中間期 (平成16年9月期)	前中間期 (平成15年9月期)	前 期 (平成16年3月期)	当中間期 (平成16年9月期)	前中間期 (平成15年9月期)	前 期 (平成16年3月期)
売 上 高 (百万円)	24,666	24,984	46,420	22,961	24,176	45,989
営 業 利 益 (百万円)	5,620	6,232	10,972	4,317	5,455	10,085
経 常 利 益 (百万円)	6,122	5,728	10,316	5,055	5,313	9,719
中間(当期)純利益 (百万円)	3,763	2,919	5,623	3,196	2,825	5,518
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	102.46	78.94	150.64	87.02	76.38	147.89
総 資 産 (百万円)	106,702	100,336	102,852	103,348	96,402	99,679
株 主 資 本 (百万円)	90,791	86,807	87,903	85,556	82,015	83,289

業績の推移 (連結)



営業活動のご報告（連結）

横編機部門

当社のコア・ビジネスである横編機事業では、消費地型生産においてはホールガーメント[®]特有の消費者に対するメリットを前面に出し、今までにない新



SWG-X
ホールガーメント
コンピュータ横編機

しい魅力のあるサンプルの蓄積による、独自のノウハウ、デザインさらにはデータまでをトータルサポートすることで、アパレル、ニットメーカーのモノづくりに貢献し、市場への浸透を進めてきました。一方、安価な労働力を背景に大規模生産拠点となったアジア地域や中東では、ボリュームゾーン商品の生産が活発で、裁断及び縫製工程を必要とする従来型横編機（SESSシリーズ）の需要が継続しており、世界のニット生産における二極化が進んでおります。

このような状況のもと、海外市場におきましては、ニット生産の主要地域に成長したアジア市場で、香港、中国の設備投資が順調に拡大し、前年同期をさらに上回るペースで売上を伸ばしました。中東のトルコでは、前下期からの調整局面が続き、急速に拡大した前年同期と比べると大幅な減少となりました。欧州市場では、主要マーケットであるイタリアにおいて売上が伸長し、米国でもホールガーメント[®]横編機の大型投資があり売上増となりました。この結果、海外売上高は前年同期に比べ若干の増加となりました。

国内市場では、圧倒的な輸入ニット製品の市場流通量に対し、アパレル、商社、ニットメーカー、紡績などとの協業体制が構築され、付加価値の高い国内生産への回帰が進みました。各産地においてもホールガーメント[®]

による独自のモノづくりが浸透してきたことで、百貨店やブティック、専門店などから最終消費者への認知度も高まってきましたが、設備の拡がりは前年のペースを下回り、国内売上高は前年同期に比べ減少しました。

横編機事業全体としては、売上高は207億81百万円（前年同期比2.8%増）となり、販売台数においても過去最高を記録した前期をさらに更新する結果となりました。

デザインシステム関連部門

デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界におけるデザイン企画とモノづくりの現場、流通、小売を直結するツールとして、ALL in ONEの開発コンセプトを持つ「SDS-ONE」の提案販売に傾注したことで、高付加価値のモノづくりを支援する高機能性と操作性の良さが高く評価されました。

その結果、国内、海外市場とも前年同期を上回る推移となり、売上高は10億58百万円（前年同期比10.6%増）となりました。



SDS-ONE
デザインシステム

手袋靴下編機部門

手袋靴下編機事業では、主要市場である韓国、中国で売上が減少し、売上高は14億91百万円（前年同期比38.8%減）となりました。



NewSFG
シームレス手袋編機

トピックス

「ホールガーメント[®]」の魅力と可能性

先進国のニット産業においては、途上国から輸入されるニット商品に国内生産が圧倒されるという産業構造でした。しかし近年はそうした構造に変化の兆しが見え始め、ニット生産の国内回帰という動きになって表れています。そして今、そのキーアイテムとして「ホールガーメント[®]（無縫製ニット）」が、ファッション・アパレル業界から注目されています。

この「ホールガーメント[®]」は、当社が開発したコンピュータ横編機によって編み立てられる無縫製ニットのことで、近年は、国内回帰のトレンドとともに、ホールガーメント[®]だけがもつ高い魅力と可能性が業界に広く確実に認識された結果、大手アパレル等が主要ブランドへの本格採用を進めています。

今までにない魅力のある製品を実現

ホールガーメント[®]の高い魅力と可能性によって、消費者や生産者はさまざまなメリットを享受できるようになります。

まず、無縫製ニットによる三次元の立体編成は、ドレスのような美しいシルエットとデザイン性の高い製品を可能にしました。また、縫い合わせがないことにより、伸縮性に優れ、ソフトな着心地や軽いといった着る人へのやさしさにもあふれ、付加価値の高い、これまでになかった新しい魅力のある製品の創造が実現可能となったのです。

消費地型生産に最適な製品

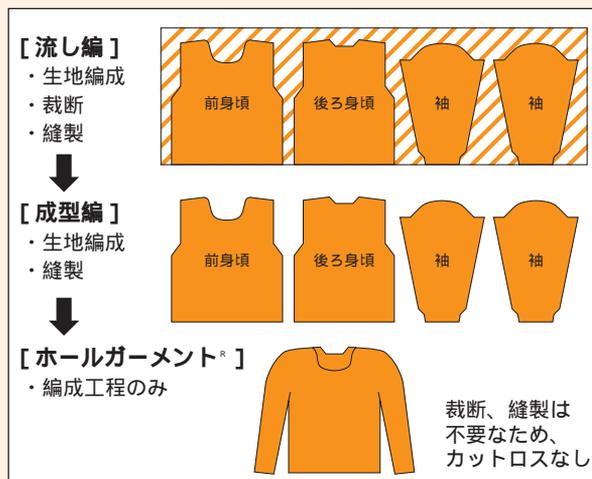
生産面でも、縫い合わせが不要なホールガーメント[®]は、裁断・縫製工程を省略でき、また原材料のカットロスによるコストを削減できるため、人件費等の



コストが割高な先進国であっても、消費地としての本国での生産に最適な製品といえます。消費される場所に近ければ近いほど、売れ筋商品に即応（クイックレスポンス）でき、過度の在庫負担や品切れ・売れ残り等のロスを大幅に削減できます。リードタイムの長い、安価な大量生産品ではできない、より市場の要求に即座に適応する知識集約型のモノづくりを実現できるのがホールガーメント[®]です。

そして生産コストの削減だけでなく、ニット生産における省資源・省エネ化にも大きく寄与できる地球環境に配慮したニット商品とも言えます。

このように「ホールガーメント[®]」には多くの魅力と可能性があり、その普及によって「ニットは縫い目のないのが当たり前」となる日もそう遠くないかもしれません。



社会貢献活動の推進

業界のリーディングカンパニーとして「限りなき前進」を続けるシマセイキでは、社会、経済、環境における企業行動全般についてステークホルダー（利害関係者）の皆さまの期待に応え、企業の社会的責任（CSR）を果たすため、地域社会の環境整備や地球環境の保全、さらには様々な文化・スポーツ活動の支援などを通じて、社会に対する貢献活動を継続的かつ誠実に実践しております。

ここでは、それらシマセイキの社会貢献活動の一端をご紹介します。

地域社会の環境整備、地球環境の保護

<その1> 太陽光発電システムの導入

当社では、環境に配慮した活動の一環として、民間企業では最大規模の420キロワットの出力となる太陽光発電システムを導入しています。

単なる省エネ対策だけでなく、CO₂排出の一因ともなっている化石燃料に依存した従来の電力供給から太陽光発電へとその一部をシフトさせることにより、企業活動に伴うCO₂排出量を削減し、地球の温暖化防止に取り組んでいます。



工場棟の屋上に並ぶ太陽光発電システム

<その2> 本社周辺環境の緑化推進等

今から約40年前、世界初の全自動手袋編機の生産が本格化した当社は、その量産体制を確保するために現在の本社所在地に本社・工場を移転しました。

その当時から当社では、工場と周辺地域との環境融合の先進地であった欧州の事例を参考に、工場敷地内や本社周辺の緑化に注力してまいりました。

近年では、さらに自社の敷地を提供して歩道をつくり、そこに電線を地中化したり、街路樹の植栽、街灯の設置などの環境整備・緑化推進事業にも積極的に取り組み、周辺地域の環境の向上に努めています。

また、何よりも当社製品を通じた環境保護活動の一環として、ホールゲーム®横編機の導入をユーザー業界へ積極的に働きかけることによって、ニット生産における省資源化・省エネ化を軸とした地球環境の保護に寄与しております。



街路樹の植栽

敷地内の広大な緑地



スポーツ活動の支援

地元和歌浦湾を拠点とするセーリング競技・女子470級の佐竹美都子選手・吉迫由香選手のペアが、アテネオリンピックに出場するにあたり、当社はメインスポンサーとしてその活動を支援しました。

そして全国的なヨットの大会であるSHIMA SEIKI CUPに特別協賛し、海洋スポーツの振興と海を通じた地元和歌山のPRにも取り組んでいます。



財務データ（連結）

中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期 <small>平成16年9月30日現在</small>	前中間期 <small>平成15年9月30日現在</small>	前 期 <small>平成16年3月31日現在</small>
流動資産	76,583	68,168	70,953
現金及び預金	7,378	8,245	8,192
受取手形及び売掛金	57,754	49,491	51,562
たな卸資産	10,583	9,713	10,323
その他	3,028	2,301	2,519
貸倒引当金	2,161	1,584	1,644
固定資産	30,119	32,167	31,898
有形固定資産	18,068	18,542	18,470
建物及び構築物	5,611	6,194	6,067
土地	10,292	10,318	10,388
その他	2,164	2,028	2,014
無形固定資産	114	139	125
投資その他の資産	11,936	13,486	13,302
その他	12,815	14,380	14,200
貸倒引当金	879	894	898
資産合計	106,702	100,336	102,852
流動負債	13,376	10,964	12,376
支払手形及び買掛金	5,552	4,699	4,763
短期借入金	2,520	520	1,720
賞与引当金	1,117	1,036	710
その他	4,186	4,708	5,183
固定負債	2,348	2,383	2,420
退職給付引当金	1,481	1,544	1,497
役員退職慰労引当金	867	835	921
その他		3	1
負債合計	15,725	13,348	14,797
少数株主持分	186	180	152
資本金	14,859	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724	21,724
利益剰余金	61,875	58,359	60,408
土地再評価差額金	5,153	6,664	6,657
その他有価証券評価差額金	102	61	240
為替換算調整勘定	177	43	235
自己株式	2,439	1,488	2,436
資本合計	90,791	86,807	87,903
負債、少数株主持分及び資本合計	106,702	100,336	102,852

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期 <small>平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで</small>	前中間期 <small>平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで</small>	前 期 <small>平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで</small>
売上高	24,666	24,984	46,420
売上原価	13,060	12,951	24,073
売上総利益	11,605	12,032	22,346
販売費及び一般管理費	5,985	5,799	11,374
営業利益	5,620	6,232	10,972
営業外収益	530	171	364
受取利息	113	92	197
為替差益	311		
その他	105	79	166
営業外費用	28	675	1,020
支払利息	4	0	4
為替差損		613	891
その他	24	62	124
経常利益	6,122	5,728	10,316
特別利益	27	49	67
特別損失	37	825	864
税金等調整前中間(当期)純利益	6,111	4,952	9,520
法人税、住民税及び事業税	1,603	2,947	4,809
法人税等調整額	711	917	902
少数株主利益又は損失()	32	2	10
中間(当期)純利益	3,763	2,919	5,623

中間連結剰余金計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期 <small>平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで</small>	前中間期 <small>平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで</small>	前 期 <small>平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで</small>
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	21,724	21,724	21,724
資本剰余金増加高	0		
自己株式処分差益	0		
資本剰余金中間期末(期末)残高	21,724	21,724	21,724
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	60,408	56,241	56,241
利益剰余金増加高	3,763	2,919	5,623
中間(当期)純利益	3,763	2,919	5,623
利益剰余金減少高	2,297	802	1,456
配当金	734	739	1,387
役員賞与	58	52	52
土地再評価差額金取崩額	1,504	10	17
利益剰余金中間期末(期末)残高	61,875	58,359	60,408

中間連結キャッシュ・フロー計算書

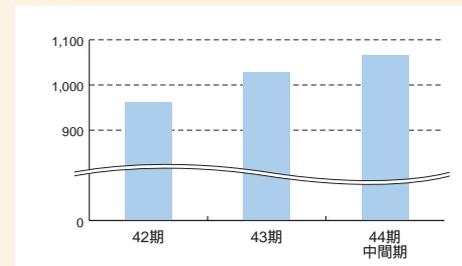
(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	6,111	4,952	9,520
減 価 償 却 費	478	491	1,021
受取利息及び受取配当金	161	123	252
売上債権の増加額	6,022	6,811	8,910
たな卸資産の減少額(増加額)	213	806	116
仕入債務の増加額	730	237	405
そ の 他	1,051	1,147	910
小 計	1,973	699	2,811
利息及び配当金の受取額	155	123	250
利 息 の 支 払 額	1	1	9
法人税等の支払額	3,042	2,472	4,261
営業活動によるキャッシュ・フロー	915	1,650	1,208
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の純減少額(純増加額)	574	5	715
有価証券の純減少額(純増加額)	19	0	0
有形固定資産の取得による支出	827	618	1,037
有形固定資産の売却による収入	736	71	102
投資有価証券の取得による支出		200	200
投資有価証券の売却による収入	74	450	591
そ の 他	29	243	442
投資活動によるキャッシュ・フロー	580	47	816
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増加額	800	500	1,700
自己株式の取得による支出	3	7	955
配当金の支払額	734	740	1,387
そ の 他	2	3	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	59	243	639
現金及び現金同等物に係る換算差額	26	19	33
現金及び現金同等物の減少額	1,409	1,921	2,697
現金及び現金同等物の期首残高	7,269	9,966	9,966
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	5,859	8,044	7,269

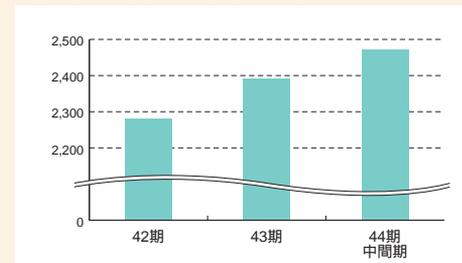
売上高営業利益率(単位:%)



総資産(単位:億円)



1株当たり株主資本(単位:円)



財務データ（単体）

中間貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成16年9月30日現在	平成15年9月30日現在	平成16年3月31日現在
流動資産	72,853	63,902	67,353
現金及び預金	4,722	5,297	5,478
受取手形及び売掛金	57,644	49,218	52,260
たな卸資産	9,924	8,906	9,128
その他	2,668	1,959	2,114
貸倒引当金	2,106	1,479	1,628
固定資産	30,495	32,499	32,325
有形固定資産	16,327	16,965	16,936
建物及び構築物	5,153	5,687	5,598
土地	9,777	9,982	10,055
その他	1,396	1,294	1,282
無形固定資産	102	125	112
投資その他の資産	14,065	15,409	15,276
その他	14,944	16,303	16,098
貸倒引当金	878	894	822
資産合計	103,348	96,402	99,679
流動負債	15,645	12,206	14,162
支払手形及び買掛金	7,905	6,210	6,682
短期借入金	3,100	800	2,000
賞与引当金	951	885	603
その他	3,689	4,311	4,877
固定負債	2,146	2,179	2,226
退職給付引当金	1,279	1,343	1,305
役員退職慰労引当金	867	835	921
負債合計	17,792	14,386	16,389
資本金	14,859	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724	21,724
資本準備金	21,724	21,724	21,724
その他資本剰余金	0		
利益剰余金	56,464	53,522	55,562
利益準備金	2,124	2,124	2,124
任意積立金	49,605	46,352	46,352
中間(当期)未処分利益	4,734	5,045	7,084
土地再評価差額金	5,153	6,664	6,657
その他有価証券評価差額金	101	62	237
自己株式	2,439	1,488	2,436
資本合計	85,556	82,015	83,289
負債資本合計	103,348	96,402	99,679

中間損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から平成15年9月30日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
売上高	22,961	24,176	45,989
売上原価	13,159	13,404	25,463
売上総利益	9,802	10,771	20,526
販売費及び一般管理費	5,484	5,315	10,441
営業利益	4,317	5,455	10,085
営業外収益	793	533	763
受取利息	75	65	137
為替差益	304		
その他	412	467	625
営業外費用	55	675	1,129
支払利息	4	0	4
為替差損		608	947
その他	50	65	177
経常利益	5,055	5,313	9,719
特別利益	26	49	67
特別損失	65	800	829
税引前中間(当期)純利益	5,016	4,562	8,958
法人税、住民税及び事業税	1,216	2,686	4,401
法人税等調整額	604	948	961
中間(当期)純利益	3,196	2,825	5,518
前期繰越利益	3,042	2,230	2,230
土地再評価差額金取崩額	1,504	10	17
中間配当額			647
中間(当期)未処分利益	4,734	5,045	7,084

株主価値の向上に向けて

当社は、株主様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けており、その一環として長期にわたる安定配当を継続的、積極的に実施すべきものと考えております。

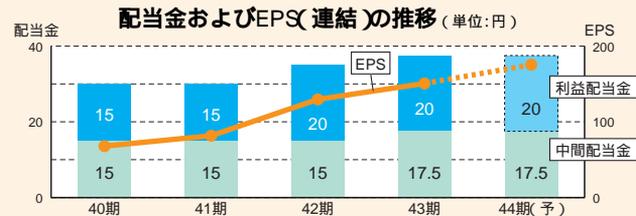
このような方針のもと、1株につき年20円以上を普通配当とし、配当性向を考慮しつつ業績も勘案したうえで配当額を決定しています。さらに当社では経営指標として連結ベースで1株当たり当期純利益（EPS）を200円以上とすることを目標としております。

当中間期においては、積極的かつ効果的な販売戦略の展開やグループ全体でのコスト削減、為替対策などの結

果、連結EPSは102.46円となりました。

これにより、当中間期の配当金は、1株につき17円50銭とさせていただきます。

今後も、株主価値の向上をはかるため積極的な事業活動を展開してまいります。



株主優待のご紹介

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しております。

3月期のご優待では、每期趣向を凝らして、国内では入手が困難なイタリア直輸入製品（ワイン、レース、ベ

【これまでの3月期の株主優待品】



オリーブオイル等

(平成16年3月期)



ショール



イタリア・ワイン

(平成15年3月期)



ホールガーメント製品

(平成14年3月期)



レース

(平成13年3月期)



イタリア・ワイン

(平成12年3月期)

ネチアグラス等）や当社の横編機で編みたてられたオリジナルのホールガーメント[®]（無縫製ニット）製品を特別企画品としてお贈りしております。

(持株数によってお届けする製品は異なります。)

【9月期の株主優待】

9月期の株主優待につきましては、当社グループ企業が経営する南紀白浜「ホテル マーキーズ」、「オーベルジュ サウステラス」の宿泊優待割引券（正規料金の30%引）を呈呈しております。

発行基準	ホ テ ル マーキーズ		オーベルジュ サウステラス
	100株以上	2枚	1枚
1,000株以上	4枚	1枚	
3,000株以上	6枚	1枚	

Stock Information

株式の状況(平成16年9月30日現在)

大株主

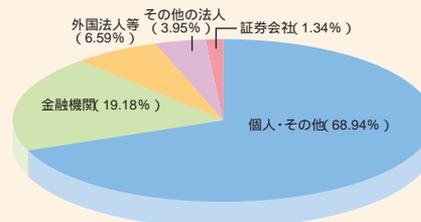
株主名	持株数	議決権比率
島 正 博	4,685 千株	12.78 %
後 藤 明 史	2,390	6.52
島 三 博	1,980	5.40
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,208	3.29
和島興産株式会社	1,130	3.08
シマセイキ社員持株会	1,014	2.76
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	992	2.70
株式会社紀陽銀行	838	2.28
島 節 子	776	2.11
株式会社U F J 銀行	730	1.99

(注) 当社は、自己株式870千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

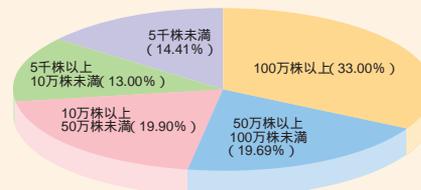
株式の状況

会社が発行する株式の総数 ...142,000,000株
 発行済株式の総数37,600,000株
 当中間期末株主数16,879名

所有者別分布



所有数別分布



当社の企業グループ

当社の企業グループは、横編機、デザインシステム、手袋靴下編機の製造販売を主な事業内容とし、それに関連する部品の製造販売に加え、その他としてホテル業等の事業活動を展開しております。なお、連結子会社は、下記の7社となります。

製造子会社

株式会社シマファインプレス
 株式会社ニットマック
 ティーエスエム工業株式会社



部品等

株式会社島精機製作所

製品等



株式会社シマファインプレス



SHIMA SEIKI U.S.A. INC.

ホテル業

株式会社マーカーズ

販売子会社

株式会社ツカダシマセイキ(群馬県)
 SHIMA SEIKI EUROPE LTD.(イギリス)
 SHIMA SEIKI U.S.A. INC.(アメリカ)

会社概要

会社概要(平成16年9月30日現在)

商号	株式会社 島精機製作所
英訳名	SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社	和歌山市坂田85番地
創立	昭和37年2月4日
資本金	148億5,980万円
従業員	1,042名
事業内容	コンピュータ横編機 シームレス手袋編機、靴下編機 コンピュータデザインシステム ニットCADシステム アパレルCAD / CAMシステム

役員(平成16年9月30日現在)

役名	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正 博	
常務取締役	田 中 雅 夫	経理部長
取締役	岩 倉 煌 一	経営管理部長
取締役	京 谷 実	生産技術部長
取締役	森 田 敏 明	資材部長
取締役	和 田 隆	製造技術部長
取締役	後 藤 明 史	営業部長兼トータルデザインセンター部長
取締役	島 三 博	グラフィックシステム開発部長
取締役	片 桐 正 二 郎	企画部長
取締役	梅 田 郁 人	輸出部長
取締役	藤 田 紀	総務部長
常勤監査役	大 川 修	
常勤監査役	沖 殿 俊 幸	
監査役	的 場 悠 紀	弁護士

(注) 監査役 的場悠紀は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

事業所(平成16年9月30日現在)

本社	和歌山市坂田85番地
支店	東京支店(東京都中央区) 大阪支店(大阪市北区) 名古屋支店(名古屋市中区) 泉州支店(大阪府泉大津市)

営業所	山形営業所(山形県山形市) 福島営業所(福島県伊達郡保原町) 新潟営業所(新潟県五泉市) 甲府営業所(山梨県中巨摩郡昭和町) 四国営業所(香川県東かがわ市)
海外支店	台北支店(台北市)

株主メモ

決算期	毎年3月31日
配当金受取株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	毎年3月31日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
公告掲載新聞	日本経済新聞 なお、当社は貸借対照表および損益計算書を当社ホームページ (http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html) に掲載しております。
株式事務取扱場所 名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 U F J 信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 U F J 信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部 電話 (0120) 094 - 777 (フリーダイヤル)
同取次所	U F J 信託銀行株式会社全国本支店
株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。	
電話 (フリーダイヤル)	0120-244-479 (本店証券代行部) 0120-684-479 (大阪支店証券代行部)
インターネットホームページ	http://www.ufjtrustbank.co.jp/

単元未満株式の買増請求および買取請求のご案内

当社は、平成16年6月30日から「単元未満株式の買増制度」を導入いたしました。単元未満株式（100株未満の株式）をご所有の株主様は、その単元未満株式について、100株になるまでの不足株式数を当社から購入（買増請求）することができます。また、単元未満株式の買取請求につきましても、従来どおりお取扱いいたしております。お手続きの詳細につきましては、上記の当社名義書換代理人までお問い合わせください。なお、保管振替制度をご利用の株主様は、お取引のある証券会社にお問い合わせください。

SHIMA SEIKI

株式会社島精機製作所

和歌山市坂田85番地

URL <http://www.shimaseiki.co.jp/>